

北里大学医療衛生学部 半期の主なニュースと魅力を満載!!



学部新校舎の完成予想パース（実際とは異なる場合があります）

待望の学部新校舎建築へ向けて

相模原キャンパスの中でもひとときわ奥まった場所に位置し、50年の歴史が醸し出すA1号館。旧衛生学部を含めた本学部の関係者にとってはたいへん愛着のある建物です。しかしながら、老朽化に加え耐震性の問題もあり、大学内における至急対処事項と位置付けられ、医療衛生学部校舎建替え計画が急遽加速されることになりました。昨年9月の定例理事会で、A1・A2号館の建替えが承認され、学部保有資金の枠内で新校舎を建築すべく計画が急ピッチで進んでおります。

本計画の最大の特徴は、学部主導で進行していることにあります。医療衛生学部各学科・専攻・部門から選任された委員で構成される「プロジェクトA」と銘打った会議体で、何度も検討が重ねられ、意見が集約されました。今まで分散していた学部内の教育・研究の場を機能的にまとめるため、新校舎は、健康科学科（HS）、医療検査学科（ML）、医療工学科臨床工学専攻（CE）、基礎医学部門（BM）、講義室・実習室及び実験動物施設を配置し、A3号館前の緑地を建築予定地としています。尚、引き続き使用するA3号館は、新校舎完成後に改修し、医療工学科診療放射線技術学専攻（RT）とリハビリテーション学科の4つの専攻である理学療法学専攻（PT）、作

業療法学専攻（OT）、言語聴覚療法学専攻（ST）及び視覚機能療法学専攻（OV）と、一部の講義室及び実習室を配置する予定です。

現在、基本設計の段階ではありますが、外部の方々にも、これほど協調性が発揮され予定通り進行している計画は珍しいと感心されます。本学部のもつ連帯感の表れであると胸を張って誇らしく思えた瞬間です。本計画にあたっては、北里英郎学部長、大野貴司事務長、そして阿部祥子課長、並びにプロジェクトAのメンバーをはじめ多くの教職員の皆様のご努力がございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

プロジェクトA委員長
基礎医学部門病態生化学

教授 市川 尊文



学生から見た国際チーム医療演習

同職種・他職種とチームとして連携するうえで、相手の話を真剣に聞くこと・相手の意見を理解すること・違いも含めて尊重することの重要性を学びました



リハビリテーション学科
作業療法専攻
4年
長谷部 早希

私が今回の演習を通じて学んだことは、相手に伝えようとする姿勢が一番大切だということです。英語は得意でないう

に、いざ留学生を目の前にすると話したいことが上手く伝わらなかったらどうしようという不安が勝り、最初は意見することに躊躇してしまいました。しかし、留学生と関わっていく中で、話す技術よりも、頑張っ

うとしてくれるので大変嬉しくなり、相手の考えもより詳しく聞くことができて、ディスカッションが楽しくなりました。今回の国際交流を通して、コミュニケーションの難しさを実感するだけでなく、改めて自分の関わり方について考え直す機会となりました。卒業後は、同職種は



一人一人の考えや価値観を理解しようと、みんな必死に耳を傾けています

もちろん、他職種とも連携しチームでの方向性を決めることは必ず必要となると思います。考えの違いも含め相手の意見を理解し尊重できること、私自身も自分の考えを相手に伝えられるように主張すること、もっと普段の授業のグループワークなどから心がけたいと思いました。また、国によって価値観が異なり、症例に対するアプローチの視点も異なることに驚きました。医療制度も

国によって全く異なり、それによって、患者さんが受ける医療、介護サービスが変わるのだと感じました。さらに、作業療法士として求められる役割や働く場所も、国によって違うのではないかと考えました。様々な国について知ること、より日本の医療の現状を勉強する必要性を感じ、そして自らがもっと視野を広くすれば、より様々な医療現場において貢献できるチャンスがあるのだと感じました。

演習のはじめは緊張していましたが、今振り返ってみる

と大変貴重な機会となり、参加して本当に良かったと思います。国際交流を通じて、より自分の目指す職種の奥深さ、楽しさを感じるきっかけとなりました。この気持ちをお忘れず、これからも精いっぱい学べることを吸収していきたいです。



IPE 棟チーム医療演習室にて

第7回ものづくり日本大賞経済産業大臣賞受賞

苦しみを楽しみに変える医工連携の力



リハビリテーション学科
視覚機能療法学専攻
教授
半田 知也

2018年2月5日に「ゲームで楽しく両眼開放下で行う小児弱視訓練器 (Occlu-pad®)」で日本ものづくり大賞経済産業大臣賞を受賞させていただきました。本機器は東日本震災の被災地経済の復興促進に貢献することを目的としたJST(国立研究開発法人科学技術振興機構)ASTEP(復興促進型)の事業として産学官及び医工連携にて開発された装置です(筆者は本事業の研究責任者)。受賞理由は従来の弱視訓練より、訓練期間が短く・ストレスフリー・副作用も無いなど小児及び保護者の負担を大幅に軽減する上に高い訓練効果が得られ、国内外の小児弱視訓練に大きく貢献できることが評価されたことによります。

従来の弱視治療は健康な眼を眼帯で遮閉し、弱視眼を強制的に使用させる方法(遮閉法)が主流であり、訓練期

間は1年以上の長期に亘る場合もありました。患児及び保護者にとって長く苦しいリハビリが、本装置の革新的なアイデアとタブレットを使った様々な演出により、楽しみに変わり、治療期間は最短2〜3ヶ月となりました。被災地企業と北里大学の医工連携による様々なヒラメキが様々な分野のプレイクスルーになり、「苦しみを楽しみに変える力になる」ことにつながりました。本受賞が東日本震災の被災地経済の復興促進に僅かながらでもお役に立てることを、北里大学の研究者として心から願っています。



医療系研究科における学生生活

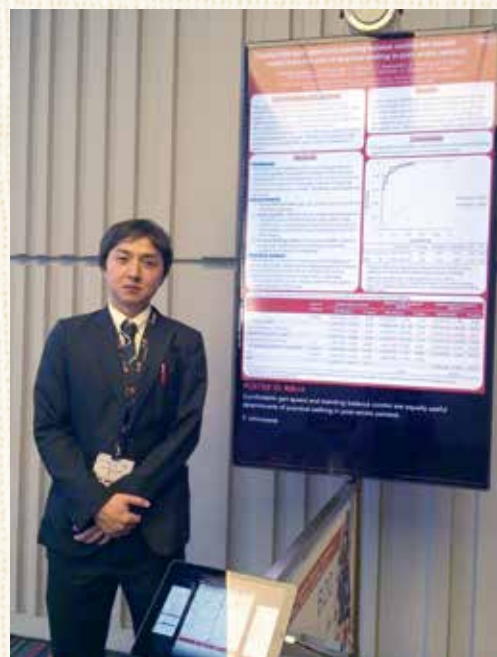
医療系研究科に進学して得られたこと



2017年度医療系研究科
博士課程修了
市野沢 由太

私は、脳卒中リハビリテーションに興味があり、知識や理解を深めることを目的として進学を決めました。大学院生活では、理学療法士として病院、施設、訪問リハビリなどで働き臨床経験を積み重ねる一方、「脳卒中患者の歩行の実用性」をテーマとして研究を行い、国内のみならず、国際学会にも参加することができました。現在、理学療法士は、年間1万人を超える人が誕生する時代です。そのため、様々な知識、能力、専門性等が求められています。よく、臨床と研究を切り離して考える方がいますが、研究は

やはり臨床に活かして初めて意味があり、研究を行う能力を習得することは、臨床を行っていく際の必要なスキルであると考えます。よく進学後の就職に対する不安を聞くことがあります。が、研究のスキルを求めている(理解している)就職先は数多くあり、実際に私自身、研究のスキルを身につけることによって活躍の幅がさらに広がったと思います。もし、研究に興味がある、学びたいと考えている方がいましたら、心配せずに恵まれた環境下にある医療系研究科へ進んでみてください。



European Stroke Conference 2014での発表(フランス ニースにて)

留学生との学術国際交流

外国人留学生を受け入れた経験から今後の展開への提案

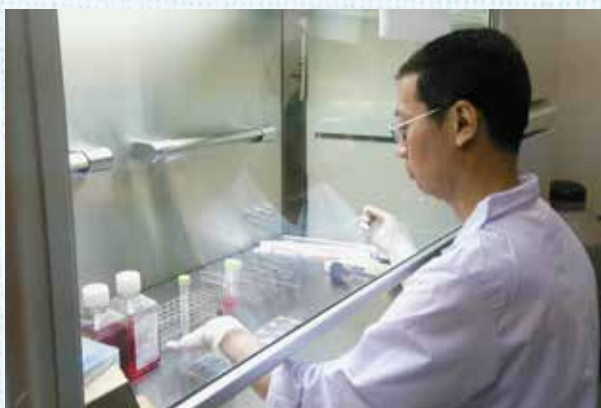


再生医療・細胞デザイン
研究施設
動物実験部門 准教授
丸山 弘子

デンマークの大学院生 Mette Aln Tutorさんが、私の研究室に来たきっかけは、国際学会で初対面の彼に「いつでもいらっしゃい」とリップサービスで言ったそのひとことでした。サポートする研究費もなく、留学生の受け入れ経験もない不安から、一旦はお断りしましたが、「滞在費は自分で出すので、実験したい！」との熱心なメールが再度届いたのです。彼は計4ヶ月の滞在で、「海藻抽出物による癌細胞のアポトーシス誘導実験」を成功させ、学位取得にまでこぎ着けました。その後、ミャンマーからの留学生を4名受け入れ、学部の皆様のご協力もあり、国際的に研究活動を支援することができました。研究室に一人でも外国語を話す人がいると、雰囲気が大きく変わります。学生達も次第に英

会話が成立する様になり、研究室全体の活性化に繋がりました。

今後、留学生や研究者を通じた海外との自由な研究交流は、グローバル化時代には必要です。本学は生命科学の総合大学として多様な要求に対応しやすい研究環境です。奨学金取得のサポートと滞在環境の充実等を打ち出すことで多くの人が来校してくれ、今後ますます北里大学の国際交流が活発になり発展することを願っています。



Aung Khaingさんによる細胞培養実験

ダイビングクラブ

集大成の春の海外合宿（パラオ）報告



医療工学科
診療放射線技術科学専攻
3年 Diving Club 主将
川西 啓太

こんにちは。医療衛生学部 Diving Club 主将の川西啓太です。私たちは、医学部潜水医学研究会とともに神奈川県近郊で日々練習を行い、夏は八丈島そして春には集大成として海外でダイビングを行っています。今年の春合宿は4泊6日でダイビングの聖地、パラオで活動して参りましたのでその報告をさせていただきます。

ブルーホール



パラオでは、マントアを間近に見ることができ、初参加の1年生が皆絶賛していました。やはりマンタの人氣は絶大ですね。あの優雅に泳ぐ姿は癒されます。他にも洞窟潜水を行うケーブダイブやブルーコーナー、ブルーホールといったスポットでのダイビングのほかに、全身に泥パックをするミルキーウェイも体験することができました。最後に、Diving Clubは部員を随時募集しております。ダイビングという未知な世界と一緒に足を踏み入れてみませんか？



cruise controlでの集合写真

新任教員紹介

健康科学科 精神保健学

講師 市倉 加奈子



東京都出身。早稲田大学人間科学部卒業、同大学大学院人間科学研究科修士課程修了。東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科修了、博士(医学)。日本学術振興会特別研究員、東京医科歯科大学大学院プロジェクト助教を経て着任。趣味は、バレーボール、ミュージカル観劇。

精神保健学研究室講師着任のごあいさつ

平成30年4月1日より健康科学科精神保健学研究室の講師として着任いたしました。

私は修士課程卒業後、臨床心理士として活動して参りました。臨床では、がんや心不全などの重症身体疾患患者の心の問題に関心を抱き、緩和ケアチームなどでカウンセリング経験を積ませていただきました。また研究では、「終末期がん患者と家族のコミュニケーション」や「がん患者における心理療法の受療」をテーマに行って参りました。科学的なデータを示すことが難しい分野で、苦勞が絶えない日々でしたが、身体疾患患者のメンタルヘルス改善に寄与するために、地道な活動を続けてきたことは貴重な経験だったと感じております。

今後はこれまでチーム医療の中で培ってきたスキルを学生の皆さんに還元するとともに、自分自身もその輪の中で学びを深めていきたいと思っております。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

リハビリテーション学科 作業療法学専攻

助教 前場 洋佑



出身：神奈川県
略歴：北里大学医療衛生学部卒業、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程前期課程修了
趣味：散歩など

作業療法学専攻への着任にあたり

4月に作業療法学専攻へ着任いたしました。学生時代、大学卒業からの5年間を北里で過ごした私にとっては、まさに戻ってきたという思いです。卒業後は、北里大学東病院で主に神経難病の方のリハビリに携わりました。その後、精神疾患を持つ方へのリハビリに興味を持ち、精神科病院にて双極性障害や長期入院の方への退院支援を行なってきました。

臨床に取り組む一方で、障害を持つ方への支援は医療の視点だけでは解決できないのではないかと考え、立教大学大学院に進学しました。精神科医療が直面している課題を社会課題と捉え、社会デザインという新たな切り口から考えることで解決の糸口を見つけようとしてきました。

今後は教育、研究、臨床に近い距離に保ちながら、柔軟な考えを持った作業療法士の育成、精神障害者への支援についての研究を行いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻

助手 干川 里絵



出身：群馬県
略歴：北里大学医療衛生学部卒業、北里大学病院眼科入局。
趣味：特にないのでこれから見つけたいと思います。
特技：バレーボール

視覚機能療法学専攻の助手に着任にあたり

4月より視覚機能療法学専攻の助手に着任いたしました。大学卒業後、北里大学病院眼科に入局し8年間臨床・研究など様々な経験を積んでまいりました。大学病院では5つの専門外来それぞれの症例に対する検査方法や知識、患者様への対応を学ぶことができ、また研究・学会発表等も行っていました。大学病院での経験は、私の視能訓練士としての基盤になっています。8年間臨床で得た知識や技術を今後、視能訓練士となる後輩達に少しでも多く伝えるよう尽力したいと考えております。また、屈折や多焦点眼内レンズに関する研究も引き続き行い臨床に貢献したいと考えております。

助手として母校に戻ってくることができ、大変嬉しく思います。新たな気持ちで大学での教育・研究に携わり生徒と共に自分自身も成長していけるよう日々努力してまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

●学生が選ぶ ベスト ティーチャー賞



医療工学科
診療放射線技術科学専攻
講師 坂口 和也



2016年度に引き続き2017年度もこのような賞を戴き、大変光栄に思うとともに恐縮致しております。

教職課程を修めていない素人として、教育とは何か指導はどうすべきか試行錯誤の連続で、今も続いております。より良くしたいと思い、あれこれと慌てふためいている様子が、「親身である」とか「熱意がある」と評価されたのであれば、望外の喜びです。一方で、授業評価アンケートでは「結局最後まで解らなかった」、「独演会」との厳しい評価も戴いており、教員として未だ素人のままと率直に受け止めております。

私自身は診療放射線技師で、以前は検査業務に従事しておりました。痛みや苦しみの原因を特定するための検査ですが、検査のため患者さんに負担や苦痛を与えてしまう事もあり、当時から慌てふためく毎日だったと回想しています。負担はより軽く・精度はより高くを目指し、工夫を重ねた事が私の研究活動の原点であり、大学教員としての起源とも言えます。

今は、学生の志しや御父母の信託を受け、第一線で社会貢献を行う医療人を育成する立場となりました。上手く行かず狼狽する様も含め、感じ学び取って貰えればと思うとともに、理解し発展できる講義内容を目指し、その時点における最高の教育を提供できるよう、工夫を重ねて行こうと決意を新たに致しました。



2017年度ベストティーチャー賞授賞式

●学生生活紹介 懇和会



リハビリテーション学科
理学療法専攻
准教授 佐藤 春彦



ハーフマラソンを走る

ハーフマラソン、走ってきました。何が楽しくて走るのか？と問われれば、「食べるためです」と答えています。高カロリーなスイーツをたくさん食べるので、せっせとエネルギーを消費しないことには、体重増を食い止められません。

出場したのは丹沢湖ハーフマラソン大会です。湖のまわりをぐるりと2周するコースで、スポーツドリンクに加え、「たいやき」と名物「猪もなか」を提供する休憩所も用意されていました。私は1周目にたいやき、2周目にもなかを取るとの戦略を立て、まずはたいやきを取り食べました。でも、のんびり最後尾を走ったため、2周目に再び休憩所にたどりついた時にはお目当ての「もなか」はなく、戦略の甘さを思い知るのでした。

さて、一緒に走った懇和会仲間かというと、Tくんはたいやきももなかも口にせず、私より1時間も早くゴールしていました。そして、大食いで知られるSくんは……。1周目にたいやきを3個、もなかを6個も食べるというまさかのロスタイムが災いし、17キロの関門を突破できず、バスに収容されゴールに運ばれてしまったのでした。

そんな楽しい懇和会ですが、2018年度は「ハイキングと温泉」にリニューアルです。山の頂上でおいしいものを食べ、温泉で疲れを癒やす会です。みなさんのご登録をお待ちしております。



ゴールまであと少し



仲間と一緒に(卒業祝賀会にて)

●お薦めしたい この1冊この1枚この1本

医療工学科臨床工学専攻
准教授 酒井 利奈



著書名：理系のための研究生生活ガイド
著 者：坪田一男
出版社：講談社

楽しく研究を進めるための実用書： 理系のための研究生生活ガイド

お薦めしたい1冊は講談社ブルーバックスの「理系のための研究生生活ガイド」です。科学をあなたのポケットに」がキャッチコピーのブルーバックスは理系の方には馴染み深いと思います。自然科学全般を扱う解説本のイメージが強いでしょうか。とりわけ私のお気に入り「理系のための～」シリーズです。「理系のための論理が伝わる文章術」「理系のための英語論文執筆ガイド」も勉強になりましたが、必要に迫られなければ手に取らない、つまりタイトルが楽しくなさそ…（失礼しました）。一方で、今回紹介する「理系のための研究生生活ガイド」は、おもしろく楽しく研究を進めるための実用書です。坪田先生の楽観的な考え方は、読み手を元気づけてくれます。中高生でも読める親しみやすい文章で書かれており、学部生・院生には研究テーマの選び方、論文投稿の仕方など学生生活ですぐに役立つ内容です。若手研究者には、研究助成財団リスト、IF一覧表などが参考になるかと思います。知的向上をはかりたい大人にも役に立つ理系人のキャリアパス指南書です。



●わたしが選ぶ この店この一品

リハビリテーション学科
言語聴覚療法専攻
助教 水戸 陽子



店名：カフェ オギッソ
神奈川県愛甲郡清川村宮ヶ瀬377-1
TEL.042-722-3532
<http://www.facebook.com/Oguisso>

湖畔のカフェで心地よいひとときを



神奈川県といえば横浜や鎌倉が有名ですが、北西部も負けていません。ハイキングに最適な気持ちのいい山や川

があり、おしゃれでおいしいカフェもたくさんあります。今回は私のイチおし、宮ヶ瀬湖の湖畔にある「カフェ オギッソ」をご紹介します。

店内に入ると、コーヒーの香りと蔀きストーブの暖かさで、心地よい空間が広がります。湖畔の散歩にいらしたご夫婦やツーリング一泊の方などが来店していて、落ち着いた雰囲気です。メニューは、サンドイッチがメイン。パンはふわふわ、中身は日替わりで、どれもおいしい！リピーターが多いため、開店と同時に売切れてしまうこともしばしばです。そして厳選された季節のフルーツを使ったデザートが絶品!! マスターが試作に試作を重ねたスイーツは、どれも食べずにはられません。

内装、食器、食材、接客のすべてから、マスターのこだわりやおもてなしの心が伝わってきます。今度の週末、湖畔のカフェでゆったり過ごしてみたいはいかがでしょうか？



デザートはアラカルトがおすすめ!



事務局教務課
津花 梨佳

リリースコラム

くんくんくん…五感（嗅覚）フル活用のすすめ

皆さんは嗅覚を意識して生活していますか？人は匂いから記憶を呼び戻したり、魅力を感じ取りたりすると言いますが、意識してみるととてもおもしろいですよ。A3号館前の広場も、春は土、夏は新緑、秋は落葉、冬は澄んだ空気の匂いと、日本ならではの四季を楽しむことができます。私は東

京の中でも緑豊かな場所です。幼少期を過ごしてきたせいか、あの広場を通るたびにその記憶がよみがえり、うずうずしてしましますが、皆さんも何か思い出しませんか？匂いを意識すると、思わぬ発見をすることができます。天気を予測したり、住宅街ではお夕飯の匂いで今晚の献立のヒントを得るこ

ともできます。鼻からの情報は盛りだくさん、煮詰まったときは目をつぶって深呼吸をしてみてもいいかもしれません。場所は廊下でもどこでもいいのです。はき出した分、沢山吸い込んでください。匂いから何かひらめくかもしれませんよ。



A3号館前広場の八重桜

古川先生のお国自慢!!

●佐賀県編



健康科学科環境衛生学
講師
古川 隼士

エイリアンは珍味?!

タレントのはなわさんが歌ったことで一躍有名になった「S・A・G・A（佐賀県）」をご存知でしょうか。九州に住んでいる人でさえ行ったことないという人がほとんどなので、おそらくほとんどの人が訪れたことのないところだと思います。佐賀県のキャッチフレーズは“佐賀をさがそう”です。このフレーズだけですとネガティブな印象を受けるかと思いますが、「実は隠れた魅力がたくさんあるから探してみよう」という意図があります。有田焼は日本有数の焼き物ですし、呼子のイカや佐賀牛などの特産物もあります。弥生時代最大級の遺跡・吉野ヶ里遺跡や、日本初の国産蒸気機関車は佐賀藩が製造しているなど、歴史的にも興味深い場所だと思います。そんな中では私がイチオシしたいのは有明海のお土産物です。有明海は干満差が6mもあり、干潮時と満潮時の景色が一変します。有明海のお土産物は海苔が有名です。有明海沿いの国道を走るといたるところに「牡蠣焼き」の看板があり、格安で美味しい牡蠣が食べられます。ほかには、ムツゴロウやインギンチャクなどの珍味もありますが、その中でも海のエイリアンといわれるワラスボは本当に見た目がエイリアンで、珍味中の珍味です（気になる人は佐賀市のプロモーションムービー「W・R・S・B」を見てください!）。

他にも見た目は、「これ本当に食べるの?」という海産物がたくさんあります。そんな珍味も含めて、佐賀の魅力を探しに一度訪れてほしいと思います。



有明海の干潮時

佐賀市プロモーションムービー「W・R・S・B」
<https://www.youtube.com/watch?v=r6EpktKvUg4>



編集後記

皆様、AHS22号をお送り致します。昨冬から今春にかけては寒く長い冬、突然来た春、それと同時に一気に桜が満開となりました。また今年は重症な花粉症に悩んでいる方も非常に多いようです。私もその一人で、折角のA3号館前で嗅覚フル活用：が出来ません。本号を読んでおりますとこの半年でも、本学部では内外の交流を含め、多くの方が積極的に色々なことにチャレンジしておられ、精進した私には大きな刺激となります。さて、A1号館の建替えは最も歴史ある医療衛生学部の中でも、最も大きなプロジェクトではないでしょうか。すばらしい建物が完成するのが今から待ち遠しいです。

石川 均

編集委員会

委員長 石川 均
委員 深瀬 裕、黒田 史子、太田 悦朗、清水 忍、高橋 香子、藤村 佐子、阿部 祥子、川崎 麗子、野崎 誉也